《資料》

西陣縮緬仲間の諸証文（一）

安岡重明

はしがき

西陣織物館には、西陣織の諸仲間に関する史料が若干残されている。西陣織の歴史の古さに比較すれば、その量はわずかなものであるが、その中には貴重なものもあって、縮緬仲間の「諸証文之扣」も、そのひとつである。とりわけ、西陣織に関する史料のうちでとくに不足しているのは織屋に関するものである。享保と天明に大火があった上、織屋は零細な業者が多く、史料を残す余裕がなかった場合が多かったようである。そのため「高機大帳序文」とか「西陣天狗筆記」などが貴重な史料と重用されている。このような実情に鑑み、われわれは「諸証文之扣」を紹介することにした。

この証文控は、縮緬仲間内部の諸規制と、縮緬仲間と他の諸仲間との取りきめなどを、いろいろな紛争の始末を通して、あきらかにしてくれる。この証文控は表紙には、「天保三年壬辰十二月」と日付があるが、実際には、安永五年五月の証文から収められていて、最後は慶応三年のものである。江戸中後期の九十年間に縮緬仲間が直面した問題の多くがわかる貴重なものである。

筆写にあたっては、京都市史編さん所撮影の写真版を用い、不明の箇所は西陣織物館所蔵の原本にあたったが、それでもなお誤読のおそれなしとしない。貴重な史

料の利用を許された西陣織物館、京都市史編さん所の各位に感謝の意をあらわしておきたい。本稿は山崎康彦君が筆写し、石川健次郎講師と安岡が校訂にあたった。

〔一〕　一札

一、先達て東今町菱屋吉兵衛儀心得違仕、縮緬織候故、御願被成候ニ付御差留被為　仰付候。其御八組惣中之儀も右縮緬於織候儀者対談仕候上、証文為取替、内済仕候。即明和七寅年八組惣代として十六人印形仕、差出申候儀相違無御座候。勿論証文表之通一事ニても違乱仕間敷候。然ル処私共組内ニて北竹屋町浜屋治助、寺之内竪町菱屋嘉兵衛、今出川堀川西入町菱屋伊兵衛、小川組射場町山形屋卯兵衛、同挽木町片花屋治郎兵衛、右五人心得違仕候故、去巳年六月　御出訴被成、当時御吟味中ニ御座候処、何分続商売之儀故、無難ニ内済仕候様、糸屋年寄幷紗綾仲ケ間衆中再応御挨拶ニ付、和談仕、又〻証文差返シ申候。此度和談相対之通婦ミかけ博多紋計之儀ハ双方ニて織可申、五ツ所紋幷飛紋ハ先達て之通、其御仲ケ間之外より請取不申、其御仲ケ間ゟ御誂在之候ハヽ、無滞間ニ合候様織立相渡可申候。尤婦ミかけニても織まへ毎ニ紋無之、飛紋ハ織不申、惣紋ニ候ハヽ、此仲ケ間ニて勝手次第織可申旨、相対相済候ニ付、以来万一紛敷縮緬織候ハヽ、不寄何時ニ御見届ニ被成候て御差止ニ可被成候。其時一言之申分毛頭無御座候。為後証一札仍て如件。

安永五年申五月　　高機八組行事

亀組　袋屋太七印
　　本堂武兵衛印
竹組　松屋喜右衛門印
　　丸屋茂兵衛印
永組　菱屋又兵衛印
　　酸漿屋六左衛門印
本ッ組　松葉屋弥七印
　　藤屋喜兵衛印

鶴組　酸漿屋源八印
　　丸屋利兵衛印
松組　藤屋新兵衛印
　　丸屋勘兵衛印
梅組　若狭屋利兵衛印
　　桔梗屋利兵衛印
紗組　鍵屋嘉右衛門印
　　丹波屋半兵衛印

寺之内竪町　菱屋嘉兵衛印
小川組射場町　山形屋卯兵衛印
北竹屋町　浜屋伊助印
今出川堀川西入町　菱屋伊兵衛印
挽木町　片花屋次郎兵衛印

縮緬

御仲ケ間中参

〔二〕 一札

一、私義帯織屋渡世仕罷在候処、風と心得違ニて織屋縮緬織罷在候儀御見届、御差当御入相止メ候様被仰聞。御尤ニ奉存候。御仲ケ間之外ニて織候段不調法ニ御座候。併織懸有之候立四反織上ケ申度旨段々御頼申上候処、御聞届被下忝奉存候。左候得者右織掛立急々織仕廻候て相止メ可申候。尚又已来右左之本寄ぬきを織地合縮緬ニ相成候織物ハ堅織申間敷候。若右之儀違乱仕候て已後織候ハヽ、如何様共可被成候。其時一言之申分毛頭無御座候。仍て一札如件。

安永五年申五月　　松屋町一条下ル町　帯屋宗兵衛印

縮ミ縮緬織屋

御行事

惣中

〔三〕 一札

一、私義高機織屋之内ニて各方渡世之風津縮緬織立候ニ付、既此度御差留御願ニも可被成候段承知仕候。尤安永五申年五月各方御仲ケ間と高機織屋八組、為取替書付も有之候得者、尚以各方之織物ニ似寄候品仕間敷筈之処、私風津縮緬織立候段不調法ニ付、当時七反分程糸拵致置候ニ付、右拵置候糸之分当月中ニ織立仕、其後左右本練者不及申、片練ニても縮緬ニ似寄候紛敷品者決而織立申間敷候。若相違有之候ハヽ、如何様共御取計被成候共、一言之申分無御座候。為後日之一札仍て如件。

文化十三年子十二月　　藤屋清兵衛印

縮ミ縮緬仲ケ間両組

御行事衆中

其外御仲ケ間中

〔四〕 一札

一、私シ義者高機仲ケ間内ニて在之、此度縮緬ニ紋入織

出し候処、其御仲ケ間江相聞、依之段々及対談ニ候処、先達て其御仲ケ間者高機仲ケ間と為取替一札在之候て、私シ共之仲ケ間ニて者、縮緬類織出シ候儀者一切相成不申之儀を心得違仕、私シ織出シ候ニ付、既ニ御出訴ニ茂可被成之処、段々以御相対を以後急度相止メ可申候。然ル上者右縮緬ハ不申及、紋入等其外似寄候紗敷品等堅く織出シ申間舗候。然共只今右躰縮緬ニ仕候残糸弐反分在之候故此段御断申上、右弐反織上ケ次第ニ無相違急度織止メ可申候。尤弐反分織果を申立永々間取不申様早々織上可申候。尚此書面之趣聊違乱無御座候。為後日之一札仍て如件。

文化拾四丑年七月　　中筋千本東江入町　鱗形屋久兵衛印

縮緬御仲ケ間
両組御行事中

〔五〕　乍恐口上書

一、此度江戸三田古川町小池屋安兵衛と申者、丹後下シ糸売場新規ニ取立度旨御願申上候付、私シ共差支有無之儀奉申上候様被為仰渡難有奉承知候書付弐通。

安永四年未八月廿日

〔六〕　一札

一、縮ミ縮緬之御仲ケ間ハ先年ゟ御定法も有之候て、両御役所様江年頭御礼御勤被成、加入之儀者年季相勤候弟子其主人ゟ相願加入いたし、其外加入之儀ハ容易ニ相成不申候処、私共儀無其儀、無印札ニて同職仕罷在候。尤去ル申年御触書之趣も有之候へ共、奉公人共之不埒成ものも多有之候て、取〆りも難相成、商売之差支ニも可相成哉と被存候故、此度私共ゟ加入之義御願申候処、御聞届被成下候段忝仕合ニ奉存候。然ル上者御年頭御礼之義ハ不及申、其外諸入用共無滞出銭可仕候。又八組中申合之義一切相洩申間敷候。且又糸之義者糸屋町ゟ買請、他所不正路之糸幷下職方之抜糸都て弐番しけ糸等、加入之内ハ一切買取申間敷候。猶又弟子奉公人等宿這入加入致させ候共、是ゟ拾ケ年過候迄

ハ急度加入致させ申間敷候勿論、織職ニ付召抱候奉公人ハ格別外々江伝授仕間敷候。其外諸事組合中申合之義、毛頭相背申間敷候。若此已後我儘成義御座候て、組合御省キ被成候共、一言之異儀申分無御座候。為後日一札仍て如件。

寛政五年丑十二月

近江屋新次郎印　菱屋吉兵衛印
菱屋卯兵衛印　平野屋半兵衛印
丸屋長兵衛印　八文字屋善兵衛印
平野屋利兵衛印　舛屋伊兵衛印
近江屋平兵衛印　俵屋市兵衛印
菱屋弥兵衛印　嶋屋儀右衛門印
柏屋安兵衛印　平野屋茂兵衛印
泉屋善兵衛印　丹波屋利右衛門印

縮ミ縮緬織屋
惣中様

〔七〕　一札之事

一、私義菱屋弥兵衛殿年明候弟子児ニ相違無御座候。此度当御仲ケ間へ加入之義御願申上候処、御糺之上御取立被下候段千万忝奉存候。然ル上ハ当年ゟ拾ケ年之間弟子加入、又ハ株分等一切致間敷候。其外御仲ケ間御作法御定目等急度相守可申候。若隣家ニ外織等御座候ヲ其儘見捨置候ハヽ、如何様共御仲間御定法之通可被成下候。其時一言之申間敷候。又々外へ職筋等相伝仕間敷候。為後日一札仍て如件。

文化四年卯七月　鱗形屋儀兵衛印

縮緬仲ケ間両組
御行事中

〔八〕　一札之事

一、此度当御仲ケ間へ加入之義、文言右同断

文化四年卯七月　井筒屋伝兵衛印

宛名同断

〔九〕　一札之事

一、私義伊勢屋庄七年明弟子ニ相違無御座候。此度御仲ヶ間へ加入之義、文言右同断

文化四年卯七月　伊勢屋源兵衛印

宛名同断

〔一〇〕　一札

一、当仲ヶ間之内菱屋熊蔵殿弟子菱屋幸助名前之休株、此度我等取扱ヲ以、藤屋幸助と申ものへ家名相続之義、別段ニ御頼申上候処、御聞済可被成下、千万忝奉存候。然ル上ハ以来仲ヶ間取締通相守、一切取曖ヶ間敷義ハ仕間敷候勿論、無拠如何体之方ゟ被相願候共、此上御仲ヶ間へ出、決て彼是申間敷候。仲ヶ間定法通相立可申候。尤右相続之義ニ付、外方ゟ故障申立候者在之候ハヽ、我等罷出急度埒明、御仲ヶ間へ少も御難儀相掛申間敷候。若相違之義御座候ハヽ、此一札ヲ以如何様之御取計被成候共、其節一言之申分無御座候。為後日一札仍て如件。

文政九年戌三月　丹波屋伊兵衛印

鱗形屋儀兵衛印丸屋源兵衛印菱屋宗助印

外ニ塩屋伊助印

縮緬仲ヶ間

御行事衆中

〔一一〕　申合之定

一、此度仲ヶ間一統申合之通絹糸目之義、仲買方へも御引合被下、中買衆中承知ニ付、銘々共義急度相心得聊以相違成儀決て仕間敷候。諸事念入可申候。尤先達て下ヶ札相廻り候菱屋源兵衛殿方江ハ一統取引不致候処、右源兵衛殿本家菱屋忠兵衛殿方へ内証ニて取引致候趣相聞候段、御行事方ゟ御沙汰有之ニ付、以来右忠兵衛殿方へも絹取引堅仕間敷候。依て申合定法如件。

文化十二年亥八月

〔一二〕　一札之事

一、私義仲買渡世仕居候て、是迄其御仲ヶ間織屋様方ゟ

絹買請居候処、糸目等無理成取方仕、又ハ直段金仕掛ケ等迄相対之外非道之算用仕候段、大ニ心得違ニ御座候ニ付、此度御仲ケ間中ゟ御売留之義被成被下候段御尤ニ奉存、申訳も無御座奉誤入候。是迄之儀ハ御用捨被下候て、已後ハ直段糸目等御相対之通急度相守、非道成義不仕、正路ニ取引可仕候。尤代金仕掛之儀ハ触相場より壱匁仕掛ケ絹入目弐匁之外仕間敷候。右之趣相違無御座候。依之請人差入候間、自然御相対相違仕、無躰之算用等御座候ハヽ、其時請人罷出、右非道之勘定其外惣て埒明可申候。為後日一札仍て如件。

文化元年子十一月　鍵屋久兵衛　悴　又吉印

母ちよ印

河原町夷川上ル町
受人　檜皮屋九右衛門印

右又吉
手代嘉七書判

西加茂田尻村
受人　小嶋兵右衛門印

縮緬織屋
御仲ケ間中

〔一三〕　一札

一、鍵屋伊右衛門殿方へ日雇ひニ相成手間賃先借致居候儀助義、右訳合不存、此方へ日雇ひニいたし召遣ひ居候ニ付、伊右衛門殿ゟ御掛合有之、初て承知仕驚入、早速此方ハ及断差出候得共、仲ケ間定法通ニて新規ニ奉公人日雇ニ至迄も、先主人之差構有無、得と相糺召抱可申筈ニ候処、無其儀不念之段無申訳候ニ付、段々御詫申候処、此度之義ハ御用捨被下忝奉存候。然ル上ハ此後急度相心得、右躰不行届之儀決て仕間敷候。為後日一札仍て如件。

文政八年酉六月　穂積屋藤兵衛印

縮ミ縮緬仲ケ間
御行事中
其外御仲ケ間中

〔一四〕　一札

一、当御仲ケ間之内三文字屋久兵衛殿弟子むめと申もの、此度年季無滞相勤、相対之上我等妻ニ貰請候処実

正也。右縁ヲ以当御仲ケ間へ御加被下、尤町分ハ私名前ニ付、当御仲ケ間も私名前ニて加入仕候得共、内実ハ妻之縁ヲ以当職相始候義ニ付、自然妻義不縁等仕候ハヽ、右株差戻し、早速私方渡世筋相止メ可申、且又主人茨木屋次兵衛殿ハ私方ゟ大切ニ仕、聊も麁末成義仕間敷候。若相違仕候歟、又ハ御仲ケ間定法通相背候義にて（ママ）候ハヽ、当職御差留御願被成候共、一言之申分無御座候。為後日一札仍て如件。

文政八年酉二月　　笹屋町浄福寺西入町

亀屋治助印

妻　むめ印

前文之通相違無之ニ付、我等請人ニ相立候処相違無之、依而奥印如件。

三文字屋久兵衛印

縮緬仲ケ間両組

御行事中

其外御仲ケ間中

〔一五〕　一札

一、当御仲ケ間之内近江屋利兵衛殿ニ私弟子奉公相勤、此度年季無滞相勤候ニ付、主人ゟ相対之上私義当御仲ケ間へ御加被下忝奉存候。然ル上ハ御仲ケ間御定法通堅相守、諸事御行事中之御差図ヲ受、仲ケ間諸入用無滞差出、実体ニ相勤、主人を大切ニ可仕候。若相違之義有之、聊ニても御仲ケ間又ハ主人江対し不筋之義有之候ハヽ、当職差留御願被成候共、一言之申分無御座候。為後日一札仍て如件。

文政八年酉二月　　中筋千本東入町

近江屋善兵衛印

妻　つる印

前文之通相違無之ニ付、文言同断

近江屋利兵衛印

名宛同断

〔一六〕　一札

一、私共義当御仲ケ間に加入仕候上ハ、此後諸事御仲ケ

間御定法通堅相守、出銭万端無滞差出、諸事猥成義仕間敷候勿論、諸寄会等諸事多分ニ随ひ我意決て仕間敷候。且又、御仲ケ間御一統御差支ニ相成候義ハ仕間敷候。若相違有之候ハヽ商売差留御願被成候共、一言申分無御座候。為後日一札仍て如件。

文政九年戌七月

柊屋さ　ん印
菱屋伊兵衛印
大和屋あさ印

名宛同断

〔一七〕　一札

一、私義此度株譲受、当仲ケ間へ加入仕候処、何角定法通之義御申聞被下、忝委細承知仕候。然ル上ハ諸事仲ケ間定法通堅相守、何事ニも御差図ヲ受、仲ケ間之外へ当職相教候義決て仕間敷候。全躰私義ハ妻磯之縁ヲ以、当仲ケ間へ相加候義ニ候ニ付、自然此後妻いそ義不縁仕候ハヽ早速当職相止メ可申候。若又聊ニても御定法通相背候歟、又ハ主人家へ対し不埒ケ間敷義在之候ハヽ、当職御差留被成候共、一言之申分無御座候。為後日一札仍て如件。

文政九年戌九月

菱屋熊蔵弟子
菱屋嘉七印
妻　いそ印

同断両組
御行事中

〔一八〕　一札

一、此度我々共当御仲ケ間へ加入仕候ニ付、以来ハ諸事御仲ケ間御定法通急度相守、聊も我意我儘成義仕間敷候。出銭万端等も御沙汰次第早速差出、都て紛敷義ハ堅不仕、壱人立我意決て申立間敷候。諸事多分ニ随ひ可申候。若相違仕候ハヽ当職御差留被成候共、一言之申分無御座候。為後日之一札仍て如件。

文政十年亥八月

丹波屋きよ印

桔更屋はや印　舛屋うた印
井筒屋こま印　越後屋平兵衛印
同断
御行事衆中

〔一九〕　一札

一、私共義御仲ケ間へ加入仕候上ハ、此後諸事御仲間御定法通堅相守、出銭万端　下文言右同断

文政十年亥正月　山城屋清兵衛印
桔梗屋も　と印

縮縮緬仲ケ間両組
御行事衆中
其外御仲ケ間中

〔二〇〕　一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付、仲ケ間定法之趣夫々急度相守、諸事式目通、聊も相背申間敷候。且又出銭万端時々無相違差出、都て仲ケ間寄会評儀之義多分ニ随ひ、壱人立我意決て申立間敷、仮令親類縁者たり共、外職之者へ当職相教候儀仕間敷勿論、仲ケ間外ニて当職仕候者及見聞候ハヽ、早速行事元へ通達可仕候。且又親子兄弟奉公人たり共、拾ケ年相立候迄ハ株分加入之儀相願申間敷、右之趣相違之儀有之候ハヽ、仲ケ間御省被下候共、一言之申分無御座候。為後日一札仍て如件。

天保三辰年閏十一月　丹波屋藤兵衛印

同断
御行事衆中

〔二一〕　一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付　文言右同断

天保二卯年八月　八文字屋喜兵衛印
同弟子　きし印

名宛同断

〔二二〕 一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付 文同断

文政十三年寅八月

山城屋甚兵衛印
同悴 豊吉印
桔梗屋忠兵衛
同弟子 つる

名

〔二三〕 一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付 文同断

文政十三寅年十一月

梅鉢屋次郎兵衛印
同弟子 すて印
枡屋 嘉助印
同弟子 いく印

名

〔二四〕 一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付 文同断

文政十一年子二月

菱屋弥兵衛悴
万次郎印
証人父弥兵衛印
菱屋嘉兵衛弟子
熊吉
証人主人 嘉兵衛

穂積屋藤兵衛悴
豊吉
証人父藤兵衛

名

〔二五〕 差入申一札之事

一、我等悴豊吉義此度当御仲ケ間へ加入之儀、御頼申上候処御承知被成下、則加入被仰付忝仕合奉存候。然上ハ御仲ケ間御定法之通、急度為相守可申候。尤縮緬面仲ケ買等両様兼帯紛敷義等決て致間敷、若此後相違之儀も御座候ハヽ、御仲ケ間御定法ハ勿論、如何様御取計被成候共、其節一言之申分無御座候。為後日一札依て如件。

文政十三年寅八月

山城屋甚兵衛
山城屋 豊吉

同

御行事衆中様

惣中様

〔二六〕　一札

一、此度姪智丁子屋伊兵衛方へ我等名前菱屋伊兵衛相譲、以来卯兵衛と名乗、縮緬織職渡世為致申度奉存候。右ニ付我等儀ハ此度庄七と相改候上ハ、是迄之通縮緬織職渡世仕間敷旨、御仲ケ間へ御頼申上候処御承知被成下忝奉存候。然上ハ御仲ケ間御定法通急度為相守、正路ニ渡世可仕候。若相違御座候ハヽ、御仲ケ間御省被成候共、其節一言之申分毛頭無御座候。為後日連印一札仍て如件。

文政十三年寅八月

日暮中立売下ル町　菱屋卯兵衛改名

松屋町中立売下ル町　菱屋庄七印

丁子屋伊兵衛改名

菱屋卯兵衛印

名宛

右同断

〔二七〕　一札

一、我等義先達て御仲ケ間外ニて縮緬寄堅糸仕入売捌候風聞等御仲ケ間へ相聞へ、既ニ御差留ニも可相成処、段々丹波屋伊兵衛殿御取噯候を以、右体紛敷義も無之趣相分候ニ付、来辰年正月妻やえ義御仲ケ間へ加入仕、縮緬織職渡世仕度旨段々御頼申上候処、格別之御憐愍ヲ以、漸御承知被成下千万忝奉存候。然上ハ来正月加入仕候ハヽ、御仲ケ間御定法通一札差入、正路ニ渡世為致、寄堅等一切為致申間敷候。万一相違之儀も御座候ハヽ、何時ニても御仲ケ間御省被成候共、其節一言之違背申間敷候。若本人共彼是故障等申出候共、此連判之者共何方迄も罷出、急度埒明御仲ケ間へ少も御難儀等決て相掛申間敷候。為後日一札依て如件。

天保二卯年十二月　　千本上立売上ル町
鍵屋長七印
妻　やえ印
五辻六軒町西入町
証人　菊屋重兵衛印
内野壱番町
同　丹波屋伊兵衛印

同断
御行事衆中

〔二八〕　一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付　文言前ニ同ジ
天保三辰年正月　　菊屋重兵衛印
同娘　やえ印
縮ミ縮緬織屋仲ケ間
御行事衆中

〔二九〕　一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付　文言前ニ同
同辰正月　　酸漿屋権右衛門印
同兄　伊三郎印
名宛

〔三〇〕　一札

一、此度私共義当仲ケ間へ新加入仕候ニ付
天保三辰年正月　　藤屋与右衛門印
同弟子　きの印
名宛

〔三一〕　請合申一札之事

一、我等亡父菱屋吉兵衛方弟子とみと申もの、幼年より弟子奉公ニ召抱、年季無滞相勤候処、父吉兵衛儀先達病死仕候ニ付、右とみ義織職之義為致度候得共、御仲ケ間御定法通年季証文無之奉公人江ハ織職之義御差免無之ニ付、是迄相覚候職筋今更相離候てハ必至難渋候

ニ付、何卒賃織職之義御差免被下候様、我等ゟ段々御仲ケ間へ御歎申上候処、漸御承知被成下千万忝奉存候。右ニ付為御冥加月毎ニ鳥目百銅も御仲ケ間へ無相違、急度為差出可申候。且又御定法通勝手盡ニ織職相始御仲ケ間御差支等決て為致申間敷候。自然隠織職等仕候義、外ゟ御聞及被成候ハヽ、我等早速罷出急度為相止メ、御仲ケ間行事衆中へ少も御難儀相懸申間敷候。若相違之義も有之候ハヽ、此一札を以如何様御取計被成候共。其時一言之違背申間敷候。為後日請合申一札仍て如件。

天保二年卯十二月　　菱屋熊蔵印

名宛同断

〔三二〕　一札

一、銀七百五拾匁也

右者私妹聟八文字屋新助行事役中、書面之銀子新助遣込ニ相成候ニ付、新助義今般可相立筈之処不調達ニ付、仲ケ間一統及露顕申候処、私ニ右銀子引請済方可仕候様被仰候得共、当時一緒ニ相弁候儀も難致候ニ付、当辰年ゟ壱ケ年ニ銀百匁宛渡済候義御頼申入候処、御一統格別之御勘弁ヲ以、御承知被成下忝奉存候。然ル上ハ新介義行事役退役為致、此後諸事相慎ミ、御一統之申合通聊も為相背申間敷、為後日一札仍て如件。

天保二年卯二月　　八文字屋新兵衛印

同

御行事衆中

〔三三〕　御詫申一札之事

一、私義是迄不正之糸取扱致候趣、御仲ケ間へ申出候仁有之、夫故御行事衆中御立合ニて段々御尋ニ預り奉恐入候。右申訳難相立候故、既ニ御仲ケ間御定法通可相成候処、各様格別之御勘弁被下、有難仕合ニ奉存候。然ル上ハ此後右不正之糸等取扱致候儀他ゟ相知候ハヽ、御仲ケ間御定法通如何様之御取計被成候共、一言之申分無御座候。為後日一札如件。

天保三辰年二月　　井筒屋喜右衛門

同断

御行事衆中様

〔三四〕　誤申一札之事

一、私義八ケ年以前ゟ御仲ケ間定法違相背、不正之糸買取織職渡世仕罷在候ニ付、既御仲ケ間中御一統御差支ニ相成候ニ付、段々御取調之上御定法通を以、御仲ケ間相省可被成旨被仰聞候得共、一向頓着不仕候ニ付、則当月十日　御公儀様江御出訴ニ被成候処、私義早途御召出ニ相成、段々始末御吟味之上、厚御理解被為成下重々奉恐入候。依之於御門前段々及御対談、日数十日之間連印を以御猶予奉願被下取〆御対談之申上、向後不正之糸買取絹織立売捌候義ハ決て仕間敷候間、何卒是迄之通御仲ケ間へ御差免被成下候ハヽ、御仲ケ間御一統様江為御詫廻勤可仕旨証人之者俱ニ御願申上候処、格別之御憐愍ヲ以、御一統様漸御得心被成下難有仕合ニ奉存候。然ル上ハ此後私義不正之糸買取、絹織立、売捌候儀一切仕間敷候。若相違之儀有之候得ハ、御仲ケ間御定法通御省被成、証人之者ハ如何様御取計被成候共、其節一言之申分毛頭無御座候。為後日誤一札如件。

天保三辰年二月

一条六軒町西入町　檜皮屋定七印

六軒町一条上ル町　高嶋屋徳右衛門印

名宛右同断

〔三五〕　別紙一札之事

一、私義是迄不正之糸買取候義ニ付、此度　御公儀様江御出訴ニ相成奉恐入候。右ニ付御仲ケ間御行事様幷先役衆中様御寄会之御席江私義御招キ被成候砌り、御仲ケ間之内二文字屋佐兵衛義、私親類之義ニ付不計同道仕、佐兵衛義も俱々御詫も可申上候処、無其儀却て過

言等申之候儀ハ、何分私義心得違ニて同道仕候段重々不調法申訳無御座候ニ付、依之段々私ゟ御詫申上候処、格別之御憐愍ヲ以、漸御聞済被成下千万忝奉存候。然ル上ハ右佐兵衛義以後御仲ケ間へ対し、我儘不法等申出候義決て為致申間敷候。若相違仕此後不法之義申出候ハヽ私義早速罷出、埒明御仲ケ間中江少も御難相懸申間敷候。為後日別紙一札仍て如件。

天保三辰年二月　一条六軒町西入町　檜皮屋定七印

同断

御行事衆中

〔三六〕　一札

一、私義是迄不正之糸買取候儀此度及露顕ニ、当十一日被　御召出奉恐入候。申訳難立、各様御頼申上、十日之御猶予御願被下有難仕合奉存候。私義御仲ケ間へ偽申上、甚面目無之次第ニ御座候。御仲ケ間定法通御省被成候共申分無之処、今日ゟ休職仕候間、何卒各様方ゟ御仲ケ間御一統江宜敷御執成被成下候様、偏ニ奉希上候。以上

天保三辰年二月　檜皮屋定七印

同断

御行事衆中様

〔三七〕　一札之事

一、私義是迄御仲ケ間へ対し不当之取計致、其上御仲ケ間申合定法通を相背、仲ケ間外ニ丹波屋藤兵衛方ニて当職相始、御仲ケ間御一統御差支ニ相成候ニ付、此度御出訴ニ相成候段、誠以申訳無之仕合ニ御座候処、全私心得違不調法ニ付、是迄之義段々御詫申、私義ハ右之通不筋之取計仕候ニ付、向後私義ハ当職相止メ、株茂御仲ケ間へ可差出筈之処、格別之思召ヲ以、御願下ケ被成下忝奉存候。然ル上ハ私義ハ向後御仲ケ間へ罷出候義決て仕間敷、勿論我儘我意成義ハ不及申、無株之方へ当職伝受等決て仕間敷候。御仲ケ間其時々御

行事衆中御差図通ニ随ひ可申、若相違之義有之候ハヽ、如何様之御取計被成候共一言無申分、当職相止メ可申候。為後日一札仍て如件。

天保三辰年八月　　丹波屋伊兵衛印

同断

御行事衆中

其外御仲ヶ間中

〔三八〕　一札之事

一、私義是迄仲ヶ間申合定法通を相背不束之取計而已仕、尚又当時紅屋甚蔵と申名前を以、上長者町浄福寺西入町ニて当職ヲ相始候処、甚蔵名前之儀ハ御仲ヶ間内ニも無之、全仲ヶ間外ニ付差留御願被成、私義も不取計ニ付御出訴ニ相成、一向無申訳奉恐入候。然ル処段ゝ御頼申上、私義ハ是迄不束之取計も仕候ニ付、以来私株之義ハ悴甚蔵へ譲渡、右甚蔵義三文字屋と申屋号ニ相改、私義ハ当御仲ヶ間を引退キ候筈候。段ゝ御詫申上候処御承知ニて、御願下ヶ被下候段忝奉存候。元来当職之義ハ妻この義主人三文字屋武兵衛殿ゟ貰ひ受株ニて、私義居不申候ても当職ハ出来候事故、私義已来当職ハ決て携申間敷候。仮令如何様之義有之候共、私義向後御仲ヶ間へ罷出候義堅仕間敷勿論、悴甚蔵義諸事御仲ヶ間定法通急度為相守、少も相為背申間敷候。為後日一札仍て如件。

天保三辰年八月　　三文字屋甚右衛門印

紅屋甚蔵事　三文字屋　甚蔵印

母　この印

名宛同断

〔三九〕　一札之事

一、私義心得違ニて、其御仲ヶ間之内丹波屋伊兵衛を私方へ同居之姿ニ致、縮緬職相始、其御仲ヶ間外ニて此度差留御願被成候段、一向無申訳奉恐入候。然処段ゝ御頼申上候ニ付、格別之思召以、此度之義ハ御願下

被下忝仕合奉存候。然上ハ已来紛敷義決て仕間候。（敷脱カ）若相違候儀有之候ハヽ、如何躰御取計被下候共、一言之申分無御座候。為後日一札仍て如件。

天保三年辰八月　　丹波屋藤兵衛印

名宛同断

〔四〇〕　一札之事

一、私義心得違ニて、其御仲ケ間之内丹波屋伊兵衛を私方へ同居之姿ニ致、縮ミ縮面織職相始メ、其御仲ケ間外ニて此度差留御願被成候段、一向無申訳奉恐入候。然ル処段ゝ御頼申上候ニ付、格別之思召ヲ以、此度相改伊兵衛株を私方へ譲受、当御仲ケ間へ御加被下候筈ニて御願下ケ被成下忝存候。然ル上ハ是迄伊兵衛義御仲ケ間御拝借御銀之分ケ借仕居候ニ付、御銀元利其外伊兵衛御仲ケ間ゟ借受居候金銀共不残、私引請急度済方訳立仕、尤私義御仲ケ間へ御加被下候上ハ、此後右伊兵衛トハ音信不通ニ仕、伊兵衛之差図等受候義決て不仕、御仲ケ間定法通急度相守、我意堅申間敷候。勿論十ケ年之間ハ株分等一切仕間敷候。若相違之義在之候ハヽ、如何躰御取計被成候共、一言之申分なく、早速縮緬相止メ申候様可仕候。為後日一札仍て如件。

天保三辰年八月　　丹波屋藤兵衛印

名宛同断

〔四一〕　一札之事

一、私義仲ケ間申合定法通ゟ得ト乍相弁、是迄不束之取計仕候ニ付、既ニ此度御出訴ニ相成奉恐入候義ニて、全是迄私義心得違ニ付、以来之儀ハ急度相改、仲ケ間申合定法通相守、聊も我意我儘成義申立間敷、勿論不束之取計一切仕間敷旨御詫申上候ニ付、御承知ニて御願下ケ被下候段、忝仕合奉存候。然上ハ向後急度右約定通相守、諸事多分之評儀ニ随ひ、壱人立我意我儘成義ハ不及申、仲ケ間外無株方へ当職伝受等決て仕間敷趣ニて、御仲ケ間其時ゝ御行事衆中御差図通ニ随ひ可申候。若相違之義在之候ハヽ、如何躰御取計被成候共、

一言之無申分、当職相止メ可申候。為後日一札仍て如件。

天保三辰年八月　　丸屋　源蔵印

丹波屋伊兵衛印

名宛同断

〔四二〕　一札之事

一、私義是迄御仲ケ間へ対し不当之取斗致、其上仲間申合定法通を相背、仲ケ間外之丹波屋藤兵衛方ニて当職を相始メ、御仲ケ間御一統之御差支ニ相成候ニ付、此度御出訴ニ相成候段、誠以無申訳仕合御座候。全私心得違不調法ニ付、是迄之義段ミ御詫申、私義ハ右之通不筋之取計仕候ニ付、向後私義ハ当職相止メ、株も御仲ケ間へ可差出筈之処、丹波屋藤兵衛ゟハ是迄世話ニ相成候義有之ニ付、何卒私株を丹波屋藤兵衛へ譲り渡、以来私義ハ当職相止メ御仲ケ間へ罷出候義ハ致間敷旨御頼申上候処、格別之思召以御承知ニて御願下被下候段、忝仕合奉存候。然上ハ私義ハ向後御仲ケ間へ罷出候義決て仕間敷、勿論相止メ申候上ハ当職ニ携候義ハ勿論、似寄之渡世も決て仕間敷候。若相違仕候ハヽ、如何躰御取計被成候共、一言之申分無御座候、為後日一札仍て如件。

天保三辰年八月　　丹波屋伊兵衛印

名宛同断

〔四三〕　一札之事

一、先達て私忰源之助と申者、中立売裏門西入丁銭屋幸助方へ養子ニ遣し申候処、我等心得違ニて、私所持之株印札以、縮ミ縮緬織職為致申候処、御仲ケ間ゟ御差留ニ預り奉恐入候。然ル上ハ早速株印札取戻し、此以後右幸助方ハ不及申、外方へ私所持之株以家業為致申間敷候。若又御仲ケ間御定法通相背申候ハヽ、株印札御執上ケ被成候共、其時一言之申分無御座候。若相違之儀御座候ハヽ、請人之者罷出、急度埒明可申候。為念一札仍て如件。

天保三辰正月

柊屋吉右衛門印
妻　ゆき印
請人　高倉夷川下ル町　奈良屋久兵衛印

御仲ケ間行事衆中

〔四四〕　差入申一札之事

一、私弟子共田辺屋又兵衛義、先達て不埒有之候ニ付、当春御仲ケ間へ渡世差留之義御願申出候処、段々御紛之上御行事衆中之御挨拶ヲ以、事済ニ相成候段忝奉存候。然ル上ハ右又兵衛義已来何事ニ不寄相慎、執計可致候様申付置候間、若相違之義有之候ハヽ、其節如何様之御取計被下候共、一言之申分無御座候。為念一札仍て如件。

天保三辰年七月

升屋庄三郎印

御行事衆中

〔四五〕　詫一札之事

一、私養子兵助妹ちゑと申者、当仲ケ間之内中立売千本東入町升屋善兵衛殿弟子ニて年季無滞相勤申候者、当春株分之義御仲ケ間へ御頼為出、則来ル七月ゟ加入為致可被下候処、右兵助取計以自分ゟ之出機と偽り、妹方ニて外職為致候段、御行事衆中之御聞ニ達シ、早速差留ニ預り奉恐入候。然ル処御仲ケ間御定法通御取計可被下候処、段々母兵助不埒之段申之、且又親類亀屋八左衛門罷出供ニ御詫申上候処、漸御聞済被下、日数十日之間休職被仰付候段奉畏候。全く御行事衆中之御憐愍を以、軽く事済ニ相成候段有難奉存候。已来御仲ケ間御定法之趣、相背申間敷候。若相違之義有之候ハヽ、其時如何様共御取計被成下候共、一言之申分無御座候。為念詫一札仍て如件。

天保三年
辰五月

亀屋　うた印
聟　与助印
同　亀屋八左衛門
代弟　八蔵印

御行事衆中

〔四六〕 一札

一、私義縮ミ縮面仲ケ間之内八文字屋忠兵衛と申合セ、同人親類抔と申偽り、私義無株ニて縮ミ縮緬織職仕候ニ付、御仲ケ間ゟ御願被成御召出御糺ニ相成、奉恐入候儀ニ付、私義忠兵衛トハ親類ニてハ無御座候ニ付、段ミ御詫申上候処、御願下ケ被成下忝奉存候。然ル上ハ此後私義縮ミ縮緬織職決て仕間敷、且又右織職と紛敷似寄候儀仕候歟、又ハ忠兵衛と申合縮ミ縮緬織職等仕候儀及御聞被成候ハヽ、如何様御取計被成候共、一言之申分無御座候。為後日一札仍て如件。

天保三辰年
十一月廿四日　　下長者町油小路西入町
菊屋源兵衛印

同
御行事衆中

〔四七〕 誤申一札之事

一、私共義当仲ケ間内之者ニ御座候処、此度私共義心得違仕、仲ケ間外之下長者町堀川東江入町菊屋源兵衛方之縮ミ縮面賃職仕候義及露顕候処、早速相止メ可申筈之処、却て右源兵衛も意ニ随ひ、御仲ケ間之定法ヲ相背候趣奉恐入候。此義ニ付当事暫く之処休職も可仕筈之処、格別之御憐愍ヲ以、御用捨被下忝奉存候。然ル上ハ已来御定法通ハ不及申、不実意成義決て仕間敷候。万一此後心得違之義御座候節ハ御仲ケ間御定法通御省被成候共、一言之申分無御座候。為念仍て如件。

天保三辰年十一月　　丹波屋弥兵衛印

同断
御行事衆中
幷ニ御仲ケ間中

〔四八〕 誤申一札之事

一、私共義当仲ケ間内之者ニて御座候。此度私義心得違仕、仲ケ間外之下長者町堀川東入町菊屋源兵衛方之縮ミ縮緬賃職仕候義及露顕候処、早速相止メ可申筈之処、却て右源兵衛之意ニ随ひ、御仲ケ間定法通を相背候趣

奉恐入候。此義ニ付当事暫く之処休職も可仕筈之処、格別之御憐愍を以、御用捨被成下忝奉存候。然ル上ハ已来御定法通ハ不及申、不実意成決て仕間敷、万一此後心得違御座候節ハ、御仲ケ間御定法通御省キ被成候共、一言之申分無御座候。為念一札仍て如件。

天保三辰年
閏十一月　　丹波屋喜助印
名宛同断

〔四九〕　一札

一、私義当仲ケ間定法申合之義ハ兼て承知仕居候処、右定法通を相背、仲ケ間外無株之下長者町堀川東入町菊屋源兵衛と申熨斗目織職仕候者を甥と申偽、同人江縮ミ縮緬織職を相教、当時私義源兵衛方へ同居仕、源兵衛重ニ相成当職専仕、是迄御仲ケ間中ゟ度々御掛合も有之候処不相用ひ、剰御仲ケ間中を相手取、御出訴も可申上抔と申立、御仲ケ間中を為相騒、重々不実成取計仕候ニ付、既此度御仲ケ間中ゟ御出訴被成、私幷源兵衛共東御役所様江御召出御糺ニ相成、奉恐入、一向無申訳候ニ付段々御詫申上、全是迄之義ハ心得違ニて、源兵衛義ハ無縁ニて、甥と申義ハ申偽り候義ニて、既ニ源兵衛義ハ当職ハ勿論、似寄候義も仕間敷旨、御仲ケ間中へ一札差入候趣承知仕候ニ付、以来私義ハ左之通

一、仲ケ間定法通急度相守、不実成義仕間敷事。
一、此後右源兵衛ハ勿論、仲ケ間中之衆たり共、申合当職決て仕間敷候事。
一、是迄私名前を以、源兵衛方ゟ当仲ケ間之内へ出機差出置候ニ付、此度右出機之向幷賃仕事差出置候品々早速取集メ、向後出機等一切差出申間敷候事。
一、私義近来身上向不如意ニて、暫之処御仲ケ間中格別之思召を以、御仲ケ間歩行茂相勤居候様成身分ニ付、今三年之処ハ家内計ニて、私身分相応之当職仕、他所へ出機等一切差出申間敷、都て紛敷取計致間敷候事。
一、仲ケ間内ニ被召抱年季弟子奉公人衆中を引込候義

等曽て致間敷、奉公人召抱候ハヽ、前以仲ヶ間へ申出、差支有無相糺、無差支候ハヽ召抱可申候事。

一、私住居之処も御仲ヶ間中差支無之処へ住居仕、仮令家内間狭ニ候共、仲ヶ間内之もの方を借受、当職幷糸拵等曽て仕間敷候事。

一、御行事衆中御差図通ニ仕、出銭万端無滞差出、諸寄合之節我意不申立、多分評儀ニ随ひ可申候。尤御仲ヶ間中ゟ都て不審ニ被存候義有之候ハヽ、御届ニ不及当職差留御願被成候共、一言之申分無御座候事。

右箇条之趣急度相守可申候間、何卒此度之義ハ御願下ヶ被下候様御頼申上候処、御仲ヶ間中格別之思召ヲ以、御承知御願下被成候段忝奉存候。然ル上ハ右ヶ条之趣聊ニても相違仕候歟、又ハ相背候義有之候ハヽ、如何様御取計被成候共、一言之申分無御座、急度当職相止メ可申候。為後日一札仍て如件。

天保三辰年十一月　　八文字屋忠兵衛印

同　　御行事衆中
　　其外御仲ヶ間中

〔五〇〕　一札

一、私義是迄当御仲ヶ間之内ニて縮ミ縮緬織職仕居候処、勝手ニ付当時ハ休職仕居候。然ル処当仲ヶ間へ御拝借御銀之内を私義分借仕居候処、右之御銀幷御利足等難茂相調、其外仲ヶ間諸入用之義も難差出候ニ付、已来ハ当職相止メ候故、右御銀幷出銭滞之代りニ私株を御仲ヶ間へ差出候処無紛候。然ル上ハ向後当職ニ携申間敷、勿論紛敷義決て致間敷候。尤此後弟子共之儀ニ付御仲ヶ間へ彼是申立間敷、都て御仲ヶ間へ私ゟ何事も申出間敷候。若相違仕候ハヽ此一札を以、如何様御取計被成候共、一言之申分無御座候、為後日一札仍て如件。

天保三辰年閏十一月　　丹波屋伊兵衛印

名宛同断

〔五一〕　差入申一札之事

一、去寅年正月　御役所御銀、当仲ケ間へ御拝借之内、銀百目慥ニ借用仕候処実正也。然ル処其後私共慥ニ難渋之砌ニ御座候故、当時元利共上納之義難相成ニ付、私所持之株印札并鑑札右弐品差出候て事済之義御願申上候処、御聞済被下有難奉存候。尤已来当職職ハ不及申、賃職職ニ至迄決て仕間敷候。為後日一札如件。

天保三辰年六月

（箱印）
丸屋源蔵印
〃
丹波屋

御行事衆中

〔五二〕　差入申一札之事

一、去ル寅年正月御役所御銀、当仲ケ間へ御拝借之内、銀百目慥ニ借用仕候処実正也。

天保三辰年六月

文言右同断

升屋重助印

御行事衆中

〔五三〕　一札

一、我等所持株を此度甥伊勢屋梅次郎と申もの江譲渡、我等義ハ当職相止申度旨御仲ケ間申出、我等所持鑑札之義何方へ差入置候哉紛失仕候ニ付、今般鑑札御改被下、梅次郎へ相改御渡被成遣被下候旨御願申上候処、尚又被入御念御仲ケ間中ゟ御尋被成候得共、右鑑札之義ハ紛失ニ相違無御座旨奉申上候ニ付、御一統御承知被成下千万忝奉存候。然ル上ハ向後右紛失之古鑑札出候共、反古ニ違ひ無御座候ニ付、見当候ハヽ早速御行事まで差出可申候。後日ニ古鑑札を以、彼是申出候儀決て仕間敷、尤我等義当職を相離レ候上ハ、聊当職携候義仕間敷、右株ニ付故障ケ間敷義等曽て申出間敷候。都て御仲ケ間御差支ニ相成候義等決て仕間舗候。為後日一札依て如件。

天保三辰年閏十一月

同断　　近江屋元吉印

御行事中

御仲ヶ間中

〔五四〕　一札

一、我等義縮ミ縮緬織屋仲ヶ間之内ニ相加り、渡世罷在候。然処我等義最早老年ニ及ひ、当時ニてハ悴等も有之候得共、心底等も不宜候ニ付、所詮相続人ニ可致存念も無御座候。此儘ニ差置候てハ老年之我等義何時命終之程も難計ニ付、則御仲ヶ間へ申出、若我等相果候ハヽ、孫伊三郎と申者へ相続人ニ御取極可被成下候旨御頼申上候処、早速御承知被成下忝奉存候。然ル上ハ我等死後ニ至リ悴共ハ不及申、親類縁者之ものたり共、跡相続仕度旨申出候迚、決て御取赦御無用ニ被成下、相続之義ハ御仲ヶ間中ゟ右伊三郎を御取極被下、伊三郎名前を以、当職仕候様之御取計被成下度、訳て御頼申上置候。為後日之遺言一札差入置候処、依て如件。

天保三辰年　　閏十一月　　升屋庄三郎印

縮ミ縮緬織屋仲ヶ間

御行事中

其外

御仲ヶ間中

〔五五〕　一札

一、主人蔦屋忠兵衛ゟ御仲ヶ間へ申出私義株分之義、今般御一統御承知ニて、則株印幷鑑札ハ申請候て当御仲ヶ間へ加入仕候上ハ諸事従前ゝ御仲ヶ間定法通急度相守、尤当年ゟ拾ヶ年之間弟子加入ハ不及申、仮令親子兄弟其外親類たり共株分決て仕間敷、都て不筋紛敷取計致間敷、且又外機等有之候義及見聞候ハヽ、是又御仲ヶ間へ無遅滞申出候様可仕候。若相違仕候ハヽ如何様ニ御取計被成候共、一言之申分無御座候。為後日一札依て如件。

天保三辰年

十一月　　蔦屋浅次郎印

右之通無相違急度為相守、聊も麁末成義為致申間敷、若又浅次郎不取計之義有之候歟、前書一札之通相違仕候ハヽ、早速株之義ハ我等方へ引取候て当職相止メ候様可仕候。為念奥印証人ニ相立候処如件。

浅次郎主人
蔦屋忠兵衛印

同断
朱丸組御行事中
西　組御行事中
其外
御仲ケ間中

〔五六〕　一札

一、主人茨木屋次兵衛ゟ御仲ケ間へ申出私義株分之義

天保三辰年
十一月

茨木屋利兵衛印

右之通無相違急度為相守、文言同断

右利兵衛主人
茨木屋次兵衛印

名宛右同断

〔五七〕　一札

一、主人升屋善兵衛ゟ御仲ケ間へ申出文言右同断

年号同断

枡屋ちゑ印

右之通無相違急度為相守

右ちゑ主人
枡屋善兵衛印

名宛右同断

〔五八〕　一札

一、主人中屋久兵衛ゟ御仲ケ間へ申出

年号同断

中屋儀兵衛印

右之通無相違急度為相守

右儀兵衛主人
中屋久兵衛印

名宛同断

〔五九〕　一札

一、主人三文字屋武兵衛ゟ御仲ケ間へ申出

年号同断　　伊助事 三文字屋孫兵衛印
右之通無相違急度為相守
右孫兵衛主人 三文字屋武兵衛印
名宛同断

〔六〇〕　一札
一、親人鍵屋伊右衛門ゟ御仲ヶ間へ申出
年号同断　　鍵屋弥三郎印
右之通無相違急度為相守
名宛同断　　鍵屋伊右衛門印

〔六一〕　一札
一、主人梅鉢屋次郎兵衛ゟ御仲ヶ間へ申出株分ケ之義
文政十三寅十一月　　梅鉢屋すて印
主人 梅鉢屋次郎兵衛印
御仲ヶ間　　御行事中様

〔六二〕　一札
一、主人茨木屋次兵衛ゟ御仲ヶ間へ申出
天保四年巳七月　　茨木屋くに印
主人 茨木屋治兵衛印
名宛同断

〔六三〕　一札
一、主人桝屋金三郎ゟ御仲ヶ間へ申出
天保四年巳七月　　株分之人 升屋源助印
右之通無相違急度為相守
主人 升屋金蔵印
名宛同断

〔六四〕　一札

一、主人桝屋三右衛門ゟ御仲ケ間へ申出、株分之義

天保四年巳七月　　升屋弥兵衛印

右之通無相違急度為相守　　升屋三右衛門印

名宛同断

〔六五〕　乍恐奉願口上書

一、私共義ハ縮ミ縮緬仲ケ間年行支共ニ御座候て、御蔭ヲ以渡世連綿相続仕、難有仕合ニ奉存候。然ル処私共仲ケ間之内元誓願寺浄福寺西江入町菱屋熊蔵と申者之亡父菱屋吉兵衛と申者存生中、笹屋町知恵光院西江入町ニて別宅仕、当職罷在候処、右吉兵衛義ハ先年相果、其後吉兵衛株ハ熊蔵方へ引取候て、昨冬迄休株ニ相成在之候処、右熊蔵ゟ吉兵衛相続人取極ニ付、熊蔵方同居ニて当職相始度旨、昨冬仲ケ間江申出候付、相糺候処相違無之趣ニ相聞江、身元等之義ハ同仲ケ間ハ熊蔵慥ニ相受合ニ付、任其意承知仕、其段御断申上　両御役所様江奉差上置候名前帳面江茂点合仕、奉差上置候義ニ御座候処、仲ケ間江一応之引合茂不仕、下上者町（長カ）堀川東江入町ニ借家を借受、菱屋吉兵衛と申名前を以、専ニ当職仕居候ニ付、段ミ相糺候処、右ハ全熊蔵手段ニて、右吉兵衛と申名前人ニ相成居候者も、右町内菊屋源兵衛と申私共仲ケ間外熨斗目織職仕居候者方之下人和助と申者ニて、内実ハ右源兵衛江熊蔵ゟ、亡父吉兵衛之株名前を譲り渡候旨慥ニ承知仕、其証拠ニハ糸仕入万端菊屋源兵衛方ゟ仕送り、勿論内ミ右吉兵衛方家内一統源兵衛方ニて食事等も喰通ひニいたし候義も委細相分り有之、右体不実之取計ひ仕候菱屋熊蔵義ニ付、仲ケ間一統之者共承伏不仕、末ミ之者迄も騒立、一統相治り不申、第一仲ケ間申合セ定法通ニ茂相背候付、是迄段ミ及示談、右体不実成取計ひ不致、亡父吉兵衛相続仕候義ニ候ハヽ仲ケ間一統疑惑不致候様之取計ひいたし候様精ミ仲ケ間ゟも及応対、且又菊屋源兵衛と申者ハ先達て私共仲ケ間之内八文字屋忠兵衛と申者を源兵衛方江召抱候て、右忠兵衛之名前を以、

私共仲ヶ間ニて縮ミ縮緬織職仕候ニ付、御差留之義昨年十一月廿四日　当御役所様江奉願候処、早速御召出之上御糺被成下、段々厚御理解被成下候付及対談、源兵衛義以来縮ミ縮緬織職ハ不及申、右渡世ニ携候義も致間敷候旨ニて、別紙写之通一札も取置候処、又々熊蔵と馴合、右体之義仕候段甚不埒成訳合ニて、弥以此姿ニてハ仲ヶ間一統惑乱仕、甚以難渋迷惑仕候ニ付、相止メ候様源兵衛江も掛合候得共頓着不仕、甚以難渋当惑仕候間、御茲悲ニ右熊蔵源兵衛共御召出、始末御糺之上、紛敷取計ひ不致、源兵衛義向後私共仲ヶ間外ニて縮緬織職仕候義、御差留被成下候ハヽ難有奉存候。依之源兵衛ゟ取置候一札之写奉御高覧入、此段奉願上候、已上。

天保四巳年九月

縮ミ縮緬織屋仲ヶ間

年行支

〔六六〕　一札

一、私義縮ミ縮緬仲ヶ間之内八文字屋忠兵衛と申合、同人親類抔と申偽り、私義無株ニて縮ミ縮緬織職仕候ニ付、御仲ヶ間ゟ御願被成、御召出御糺ニ相成奉恐入候義ニ付、私義忠兵衛とハ親類ニてハ無御座候ニ付、段々御詫申上候処、御願下ヶ被成下忝奉存候。然ル上ハ此後私義縮ミ縮緬織職決て仕間敷、且又右織職紛敷似寄候義仕候歟、又ハ忠兵衛と申合、縮ミ縮緬織職等仕候義及御聞被成候ハヽ、如何様御取計ひ被成候共、一言之申分無御座候。為後日之一札依て如件。

天保三辰年十一月廿四日

下長者町堀川東江入町
菊屋源兵衛印

縮ミ縮緬御仲ヶ間御行事衆中

〔六七〕　不通養子一札之事

一、此度我等悴和助と申当巳廿壱才ニ成候者、其許殿江不通養子ニ差遣候処実正也。然ル上ハ此以後右和助義其許父吉兵衛殿御家跡相続実体ニ為致可申候。万一我

等身上不如意ニ相成候共、其許殿江御無心ヶ間敷義等一切申間敷候。尤和助義ニ付以来如何様之難渋出来仕候共、早速請人共罷出引受急度埒明、其許殿へ少茂御難相掛ヶ申間敷候。為後日之不通養子一札依て如件。

天保四巳年三月　　江州犬上郡清水村
百姓　久兵衛印
西堀川下立売下ル町
菱屋仁兵衛印

菱屋熊蔵殿

〔六八〕　覚

一、　当村
紺屋吉治
右之者方へ京都ゟ当村久兵衛倅年廿弐歳計之者、京都へ参り居申候歟、相尋申度趣ニ付願出候間、吟味致候へ共、当村方ニ右様之者無御座候間、左様御承知可被成候。為其如斯ニ御座候、已上。

天保四巳年八月六日　　江州犬上郡清水村
庄屋才治郎印

縮ミ縮緬
仲ヶ間衆中

横目吉平印

〔六九〕　一札

一、私亡父吉兵衛所持之縮ミ縮緬織職株を以、当仲ヶ間外下長者町堀川東江入町菊屋源兵衛と申仁、縮ミ縮緬織職被致候趣、御仲ヶ間内ゟ御沙汰有之、御行事元ゟ今般御尋御座候処、右体之儀ニてハ決て無御座、亡父吉兵衛死跡名前相立度存念ニて養子いたし候義ニて、右源兵衛と馴合居候義ハ一切無御座候ニ付、為証拠右養子証文之写差出置候処実正也。然ル上ハ右吉兵衛死跡為相続分家為致候義聊相違仕候歟、又ハ右養子身元等之義証文面通相違仕候ハヽ、右吉兵衛株ハ不及申、私株迄も御仲ヶ間中江御取上ケ、縮ミ縮緬織職被差留候共、又ハ如何様御取計ひ被成候共、一言之申分無御座候。為後日之一札依て如件。

天保四巳年八月

縮ミ縮緬御仲ヶ間　　菱屋熊蔵
御行事衆中

〔七〇〕　一札

一、私義亡父菱屋吉兵衛名前之縮ミ縮緬織株を、仲ヶ間外下長者町堀川東江入町菱屋源兵衛と馴合、内証ニて源兵衛江相譲り、同人義右織職為致候義及露顕、元来源兵衛義ハ昨年も当仲ヶ間之内八文字屋忠兵衛と申合、仲ヶ間外ニて当職仕、其節仲ヶ間ゟ御差留御願被成、当職決て仕間敷、紛敷似寄之義も致間敷旨約定仕、当仲ヶ間へ一札も差入有之候処、又候右体紛敷取計ひ仕候ニ付、此度御差留御願被成、御召出御礼ニ相成重〻奉恐入候。誠ニ無申訳義ニ付段〻御詫申、此度株名前共私方へ取戻し、源兵衛方ニて当職決て為致申間敷候。以来右株他所江譲り渡等一切仕間敷勿論、養子相続等仕候ハヽ其節御仲ヶ間へ申出、人体等御仲ヶ間ゟ御礼受候上ニて相続為致、聊以不筋成取計ひ一切仕間敷、若聊ニても相違之義仕候歟、又ハ我意之取計ひ仕候ハヽ、如何体ニ御取計ひ被成候共、一言之申分無御座候。為後日之一札依て如件。

天保四巳年九月　　菱屋熊蔵印

縮ミ縮緬仲ヶ間
御行事衆中
其外御仲ヶ間中

〔七一〕　覚

一、金三両三歩　　株料
右之内ニて括り滞御礼銀共
一、〻壱歩三朱　　振舞料
外ニ酒三升
一、〻　百疋　　御礼
右之内金三両三歩菱屋熊蔵殿へ無相違相渡申候、以上。
天保四巳年九月

松屋町上長者町下ル町
津国屋弥兵衛印

縮ミ縮緬仲ケ間
御行事衆中様

〔七二〕　一札

一、御仲ケ間之内菱屋嘉七と申株を私義吹挙いたし、松屋町上長者町下ル町津国屋弥兵衛倅を菱屋嘉七方養子と偽り、右嘉七株を譲り渡、当職相始罷在候義及御聞ニ候ニ付、右体紛敷義相止メ候様御仲ケ間中ゟ被仰聞承知仕候。右ハ全私心得違ニ付、為相止メ可申、勿論向後御仲ケ間御差支ニ相成候義決て仕間敷候。若相背候義有之候ハヽ、御仲ケ間中御定法通り如何様御取計ひ被成候共、一言之申分毛頭無之候。為後日之一札依て如件。

天保四巳年九月　　菱屋熊蔵印

縮ミ縮緬織屋仲ケ間
御行事衆中
其外　御仲ケ間中

〔七三〕　一札

一、私義縮ミ縮緬仲ケ間之内八文字屋忠兵衛と申合、同人親類抔と申偽り、私義無株ニて縮ミ縮緬織職仕候ニ付、昨年十一月御願被成、御召出御糺ニ相成奉恐入、私義忠兵衛とハ親類ニてハ無御座候ニ付御詫申上候処、御得心之上御願下ケ被成下候ニ付、私義縮ミ縮緬織職決て仕間敷、右織職ニ紛敷候義仕候歟、又ハ忠兵衛と申合、縮ミ縮緬織職等仕候義及御聞被成候ハヽ、如何様共御取計ひ被成下旨ニ確と及示談、一札も乍差入置、尚又今般元誓願寺浄福寺西江入町菱屋熊蔵と申者と馴合、紛敷取計ひ仕候ニ付御仲ケ間中ゟ御願立被成候ニ付、又候私共熊蔵共東御役所様江御召出ニ相成、段々御理解有之重々奉恐入、右ハ全私心得違不調法ニ付御詫申上、今般紛敷義ハ相止メ重上(然カ)は急度相守、御仲ケ間之御職筋ニ相携候義仕間敷候間、御願下ケ被成下度旨段々御願申上候ニ付、格別之思召を以御承知被成下忝奉存候。然ル上ハ右文面ハ不及申、熊蔵と此度差入札候一通とも相守、向後御仲ケ間中御職筋

ニ相携候義も不及申、御差支ニ相成候義ハ決て仕間敷候。為後日之一札依て如件。

天保四巳年九月

下長者町堀川東江入町
菊屋源兵衛印

縮ミ縮緬織屋仲ヶ間
御行事衆中
其外御仲ヶ間中

〔七四〕　一札

一、去寅年正月御役所御銀、当仲ヶ間江御拝借之内、銀百目慥ニ借用仕候処実正也。

然上ハ処其(ママ)後私共追々難渋之砌ニ御座候故、当時元利ハ上納之儀難相成候ニ付、私所持之株印札幷鑑札共弐品差出し、事済之儀御願申上候処、御聞済被下難有奉存候。尤已来当織職ハ不及申、賃織職ニ至迄決て仕間敷候。為後日差入申一札仍如件。

天保四年巳十二月

右者夫々別紙一札取置可申候以上

株主　菱屋　熊吉印
証人　菱屋　嘉兵衛印
株主　伊勢屋　清介印
株主　丹波屋　源蔵印
同断　井筒屋　こま印
〃　升屋　重介印
〃　井筒屋甚兵衛印
〃　大和屋　伝吉印
株主　桔梗屋　はや印
証人　主人　桔梗屋忠兵衛印
株主　梅鉢屋茂兵衛印
同断　嶋屋　新蔵

此はや義主人忠兵衛ハ仲ヶ間へ段々願出候故、金壱両二歩二拝借方へ上株ニ相成、別紙一札有之

此茂兵衛新蔵両人ハ朱丸別(おって)組上株ニ相成、当仲ヶ間へハ元利返済ニ相成可申候